

## 注 意 事 項

1. 試験問題の数は 55 問で解答時間は正味 1 時間 20 分である。
2. 解答方法は次のとおりである。

(例 1)、(例 2)及び(例 3)の問題では 1 から 4 までの 4 つの選択肢、もしくは 1 から 5 までの 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例 1)、(例 2)では 1 つ、(例 3)では 2 つ選び答案用紙に記入すること。

なお、(例 1)、(例 2)の質問には 2 つ以上解答した場合は誤りとする。(例 3)の質問には、1 つ又は 3 つ以上解答した場合は誤りとする。

(例 1)

101 助産業務を行うことが可能となるのはどれか。

1. 国家試験受験日以降
2. 合格発表日以降
3. 合格証書受領日以降
4. 助産師籍登録日以降

正解は「4」であるから答案用紙の④をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	①	②	③	④
			↓	
101	①	②	③	●

答案用紙②の場合、

101	101
①	①
②	②
③	③
④	●

(例 2)

102 助産師の離職時の届出が定められているのはどれか。

1. 医療法
2. 学校教育法
3. 母子保健法
4. 保健師助産師看護師法
5. 看護師等の人材確保の促進に関する法律

正解は「5」であるから答案用紙の⑤をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

102	①	②	③	④	⑤
			↓		
102	①	②	③	④	●

答案用紙②の場合、

102	102
①	①
②	②
③	→ ③
④	④
⑤	●

(例 3)

103 助産師籍に登録されるのはどれか。2つ選べ。

1. 生年月日
2. 受験年月日
3. 卒業年月日
4. 就業年月日
5. 登録年月日

正解は「1」と「5」であるから答案用紙の①と⑤をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

103	①	②	③	④	⑤
			↓		
103	●	②	③	④	●

答案用紙②の場合、

103	103
①	●
②	②
③	→ ③
④	④
⑤	●









1 妊娠週数と放射線被ばくによる児への影響との組合せで正しいのはどれか。

1. 妊娠 3 週 ———— 中枢神経障害
2. 妊娠 5 週 ———— 小児がん
3. 妊娠 8 週 ———— 奇 形
4. 妊娠 30 週 ———— 精神発達遅滞

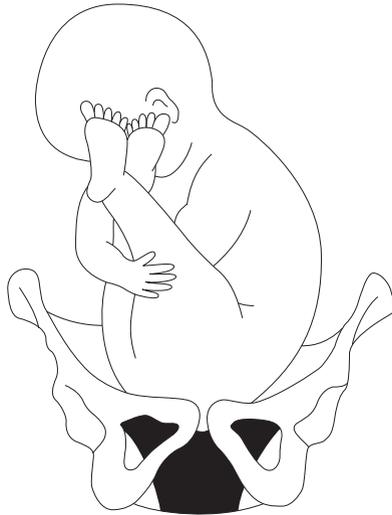
2 経口避妊薬の作用について正しいのはどれか。

1. エストロゲンの分泌が増加する。
2. プロゲステロンの分泌が低下する。
3. 卵胞刺激ホルモン〈FSH〉の分泌が増加する。
4. 黄体形成ホルモン〈LH〉の大量放出が起こる。

3 羊水について正しいのはどれか。

1. AFI が 15 以上で羊水過多を疑う。
2. 羊水量は妊娠 37 週ころに最大となる。
3. 妊娠初期の羊水は主に胎児の尿に由来する。
4. 妊娠末期に胎児が嚥下する羊水量は 500～1,000 mL/日である。

4 骨盤と胎児とを図に示す。



胎位胎向で正しいのはどれか。

1. 第1単殿位
2. 第2単殿位
3. 第1複殿位
4. 第2複殿位

5 Aさん(52歳、専業主婦)。子宮がん検診のため来院した。「最近のぼせることが増え、動悸もするようになった。すぐにイライラし、頭が重い。外に出るのも人と話すのも面倒です。子どもは独立したばかりです。夫は仕事が忙しく、毎日帰宅が遅いです」と助産師に相談があった。

このときのAさんへの対応で最も適切なのはどれか。

1. 地域でのボランティア活動の情報を提供する。
2. 家で安静にしているよう促す。
3. 更年期外来の受診を勧める。
4. 夫に相談するよう勧める。

6 子宮頸部細胞診においてスライドグラスに細胞を塗布した後の処理で正しいのはどれか。

1. よく乾燥させる。
2. 生理食塩水を滴下する。
3. カバーグラスをかける。
4. 95 % エタノールで固定する。

7 Aさん(30歳、初産婦)。妊娠39週5日。前期破水にて入院し、2時間後、自然に陣痛が開始した。分娩開始後13時間が経過し、内診所見は、子宮口6cm開大、展退度80%、Station +1、小泉門が2時方向に触れる。陣痛間欠は7分に延長し、陣痛発作は20秒のままである。陣痛間欠時も緊張しており、昨晚から眠れていない。悪心が強く、飲水が困難なため点滴静脈内注射が開始された。胎児心拍数陣痛図は正常である。

この時点でのAさんへの対応で最も適切なのはどれか。

1. 入浴を勧める。
2. 階段昇降を一緒に行う。
3. 陣痛間欠時に休息を促す。
4. 陣痛発作時に怒責を誘導する。

8 Aさん(21歳、大学生)。在学中に妊娠し、パートナーも大学生である。Aさんはパートナーと別れ、生まれた子どもは実母と一緒に育てることを決めた。妊娠経過は順調で、妊娠37週0日の妊婦健康診査で産後の生活についてAさんから助産師に相談があった。

このときのAさんの言動で見への虐待のリスクが最も高いと思われるのはどれか。

1. 「大学は卒業したい」
2. 「これからどうなるのか不安です」
3. 「本当は子どもなんか欲しくない」
4. 「この子に障害があったらどうしよう」

9 Aさん(26歳、初産婦)。東南アジアの出身で2年前に結婚し、日本人の夫(40歳、会社員)と2人暮らしである。日本語は日常会話程度ならできるが読み書きはできず、英語は全く理解できない。妊娠中から市の保健センターの保健師がAさんに関わっていた。妊娠39週に正常分娩し、母子とも経過は良好で、産褥4日目に夫とともに助産師から退院指導を受けることになった。

このときの助産師の説明で適切なのはどれか。

1. 「出生届は外務省に提出してください」
2. 「育児は日本の習慣に合わせてください」
3. 「1か月健康診査はご夫婦でお越しください」
4. 「1か月健康診査後に保健師へ出産の連絡をしてください」

- 10 生理休暇について正しいのはどれか。
1. 非正規雇用の場合は取得できない。
  2. 取得には医師の診断書が必要である。
  3. 請求できる日数は月に3日までである。
  4. 労働基準法に定められている権利である。
- 11 無床の助産所について正しいのはどれか。
1. 自宅の住所を所在地として届け出る。
  2. 管理者は助産師でなくてもよい。
  3. 保健所長が開設を認可する。
  4. 分娩は取り扱えない。
- 12 妊娠・分娩における喫煙の影響でリスクが増加するのはどれか。
1. 母体の耐糖能異常
  2. 妊娠高血圧症候群
  3. 前置胎盤
  4. 過期妊娠
  5. 弛緩出血

13 32歳の初産婦。妊娠29週0日に切迫早産と診断され、安静目的で入院した。深部静脈血栓症の既往がある。表在性静脈瘤はない。

入院中の深部静脈血栓症の予防で適切なのはどれか。

1. 床上安静
2. 減塩食の摂取
3. 骨盤ベルトの装着
4. ワルファリンの内服
5. ヘパリンの皮下注射

14 正常妊娠に伴う生殖器の変化で正しいのはどれか。

1. 外陰部の皮脂の分泌は増加する。
2. 膣粘膜は淡紅色に変化する。
3. 妊娠末期の子宮腔内の容積は非妊時の100倍になる。
4. 卵管の長さは短縮する。
5. 卵巣の直径は非妊時の3倍になる。

15 新生児期にみられる皮膚の所見について正しいのはどれか。

1. 蕁状血管腫は自然に消退しない。
2. サーモンパッチは自然に消退する。
3. 脂漏性湿疹は石けんの刺激で悪化する。
4. カフェオレ斑は結節性硬化症に併発する。
5. 中毒性紅斑は正期産児よりも早産児に多い。

16 子宮内反症の特徴について正しいのはどれか。

1. 分娩第3期に起こる。
2. 低置胎盤がリスク因子である。
3. 妊娠高血圧症候群に合併する。
4. 帝王切開術を受けた産婦に多い。
5. 発生頻度は全産婦の0.1%程度である。

17 在胎 37 週 3 日。助産所にて正常分娩で出生した 2,330 g の児。Apgar〈アプガー〉スコアは 1 分後、5 分後ともに 9 点(皮膚色 -1 点)で、呼吸数 75/分、心拍数 160/分であった。出生後 2 時間が経過し、直腸温 37.4℃、呼吸数 80/分、心拍数 150/分。心雑音を認め、末梢性チアノーゼは持続している。

この時点で緊急搬送が必要と判断される情報で最も重要なのはどれか。

1. 出生時体重 2,330 g
2. 末梢性チアノーゼ
3. 直腸温 37.4℃
4. 呼吸数 80/分
5. 心雑音

18 早期母子接触について適切なのはどれか。

1. 15 分間を上限とする。
2. 児に着衣をして保温する。
3. 母子接触中は児を観察する。
4. 低出生体重児の場合は実施できない。
5. 分娩後 2 時間が経過してから実施する。

19 39歳の2回経産婦。妊娠40週1日に適時破水し、3,980gの男児を経膣分娩した。分娩所要時間は2時間10分であった。胎盤娩出直後の子宮底は臍下2横指で収縮良好、分娩第3期までの出血量は250mLであり、膣鏡診では異常所見はなく外子宮口からの異常出血は認めなかった。会陰縫合術が行われた。分娩後1時間の観察で、500mLの膣外への出血を認めた。子宮底は臍上2横指に軟らかく触れ、子宮底の輪状マッサージにて凝血塊を含む100mLの出血がみられた。創部痛の訴えはない。体温37.0℃、脈拍80/分、血圧110/70mmHg。

現時点で必要となる処置はどれか。

1. 頸管裂傷の縫合
2. 外陰部血腫除去
3. 新鮮凍結血漿の輸血
4. 抗菌薬の点滴静脈内注射
5. 子宮収縮薬の点滴静脈内注射

20 Aさん(28歳、初産婦)。産褥2日。児の出生時体重は3,000g。経過は順調で母児同室をしている。Aさんから「赤ちゃんにおっぱいを吸わせてもすぐに外れてしまう。乳頭が痛くなってきた」と相談があった。授乳時、赤ちゃんを膝の上に乗せて、Aさんは前かがみの姿勢になっている。右の乳頭に亀裂がみられた。このときの授乳の様子を図に示す。



Aさんへの授乳指導で適切なのはどれか。

1. 右乳房の授乳時間を長くする。
2. 児の顎を十分に引いた姿勢を保つ。
3. 亀裂部を清浄綿で拭いてから授乳を始める。
4. 児が激しく泣いているときに乳頭を含ませる。
5. 児の腹部と母親の腹部とが向かい合うように抱く。

21 化膿性乳腺炎の原因菌として最も多いのはどれか。

1. 大腸菌
2. 腸球菌
3. 肺炎球菌
4. 黄色ブドウ球菌
5. B群溶血性レンサ球菌〈GBS〉

22 27歳の初産婦。妊娠41週2日、出生体重2,900gの女児を出産した。

児の感染予防についての説明で正しいのはどれか。

1. 「おへそが取れた後は消毒の必要はありません」
2. 「出生直後の沐浴は赤ちゃんの感染予防に有効です」
3. 「人工栄養によって赤ちゃんの腸内は乳酸菌優位となります」
4. 「胎盤を通じたお母さんからの免疫力は1歳まで持続します」
5. 「お母さんとのスキンシップは赤ちゃんの感染予防に有効です」

23 抗SS-A抗体陽性の全身性エリテマトーデス(SLE)合併妊娠において留意すべき

胎児の異常はどれか。

1. 巨大児
2. 食道閉鎖
3. 二分脊椎
4. 臍帯ヘルニア
5. 先天性房室ブロック

24 正常な10か月児でみられる反射はどれか。

1. 側弯反射
2. 手掌把握反射
3. 交叉性伸展反射
4. パラシュート反射
5. 非対称性緊張性頸反射

25 在胎 30 週 0 日、体重 900 g で出生した児の退院後の外来における発育発達の評価で正しいのはどれか。

1. 入院中の頭部 MRI に異常がなければ運動発達に問題は発生しない。
2. 栄養状態の評価は頭囲の発育で確認する。
3. 退院後は集団での健康診査を避ける。
4. 低身長症のハイリスク児である。
5. 暦月齢による評価を行う。

26 34 歳の経産婦。院内助産所での分娩を予定している。妊娠 34 週 3 日、妊婦健康診査のため助産師外来を受診した。「おなかの張りや出血はない」と言う。胎児心拍数 140 bpm。レオポルド触診にて子宮底に胎児部分の中で一番大きく丸く硬いものを触れ、浮球感があり、胎児先進部は未固定である。

助産師の対応で適切なのはどれか。

1. 2 週後の受診を指導する。
2. 医師に管理を依頼する。
3. 胎児外回転術を行う。
4. 膝胸位を指導する。
5. 内診を行う。

27 周産期医療におけるセミオープンシステムの目的はどれか。

1. 周産期母子医療センターでの妊婦健康診査の増加
2. リスクに応じた医療の提供
3. 診療所での分娩数の増加
4. ハイリスク妊婦の減少
5. 医療費の削減

28 助産師が行うことができるのはどれか。2つ選べ。

1. 妊娠の診断
2. 乳腺炎の診断
3. 経口避妊薬の処方
4. 死体検案書の作成
5. 出生直後の新生児の蘇生

29 妊娠6週の初妊婦。血液検査でRhDが陰性、抗D抗体が陰性と確認された。抗Dヒト免疫グロブリンを投与する時期について正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 妊娠9週前後
2. 妊娠12週前後
3. 妊娠28週前後
4. 分娩後72時間以内
5. 産褥1か月健康診査の受診時

30 羊水塞栓症の症状はどれか。2つ選べ。

1. 血圧低下
2. 視覚障害
3. 上下肢の麻痺
4. 大量の子宮出血
5. 38℃以上の発熱

31 助産業務ガイドライン 2014 における妊婦管理適応リストにおいて、連携する産婦人科医師と相談の上、協働管理すべき対象者はどれか。2つ選べ。

1. 妊娠 41 週 2 日の妊婦
2. 妊娠糖尿病の既往のある妊婦
3. 妊娠 33 週で早産の既往のある妊婦
4. 胎児発育不全(FGR)の既往のある妊婦
5. 子宮筋腫核出術の 2 年後に妊娠した妊婦

32 深部静脈血栓症を疑うのはどれか。2つ選べ。

1. 下肢の筋力が低下する。
2. 歩行時に恥骨結合部が痛む。
3. 下肢の皮膚に赤紫色の色調変化を認める。
4. 下腿部周囲径の左右差が 2 cm 以上である。
5. 大腿から下腿の背側に放散するしびれがある。

33 Silverman〈シルバーマン〉スコアの項目はどれか。2つ選べ。

1. 呼吸数
2. 筋緊張
3. 呼気性呻吟
4. チアノーゼ
5. 肋間腔の陥没

34 核黄疸のⅡ期症状はどれか。2つ選べ。

1. 嗜 眠
2. 振 戦
3. 後弓反張
4. 落陽現象
5. 哺乳力の低下

35 児童虐待のうち、ネグレクトに相当するのはどれか。2つ選べ。

1. 乳幼児を家に放置して外出する。
2. 子どもの自尊心を傷つける発言をする。
3. 子どもに不潔な下着を長期間着用させる。
4. 子どもをポルノグラフィーの被写体にする。
5. 子どもの前で配偶者やその他の家族に対し暴力を振るう。

次の文を読み 36～38 の問いに答えよ。

Aさん(33歳、1回経産婦)。妊娠40週2日、6分ごとに1分間持続する規則的な子宮収縮を自覚して来院した。前日の妊婦健康診査時の経腹超音波検査の結果、胎児推定体重3,800g、AFI8.0。夫は出産の立会いを予定していたが仕事の都合で来院できなかった。

36 来院時の内診所見は、子宮口4cm開大、展退度50%、Station-2、子宮頸管の硬度は中、子宮口の位置は中央であった。陰鏡診では後陰円蓋に少量の血液が混じった帯下があり、BTB試験紙の色調の変化は認めない。子宮収縮時には会話が困難な程度の痛みを感じている。

来院時の助産診断で正しいのはどれか。

1. 前期破水である。
2. 羊水過少である。
3. 児頭は陥入している。
4. Bishop〈ビショップ〉スコアは6点である。

37 入院後1時間、陣痛間欠3～4分、陣痛発作40秒となり、下腹部と腰部との痛みが急激に増強した。Aさんは陣痛間欠時も体中に力が入っており「もう痛みには耐えられない。帝王切開にしてください」と不安そうな表情で訴えた。

Aさんの支援のための対応として最も適切なのはどれか。

1. 楽な姿勢を一緒に考える。
2. 痛みを耐えるように伝える。
3. もっと頑張るように励ます。
4. 帝王切開術の適応ではないことを説明する。
5. 赤ちゃんが大きいと時間がかかることを伝える。

38 その後、順調に分娩が進行し、体重 3,820 g の女児を正常分娩で出産した。分娩所要時間は 4 時間 30 分、分娩第 3 期までの出血量は 400 mL であり、会陰裂傷第 1 度を認めた。分娩後 1 時間、バイタルサインに異常はない。外陰部にあてているパッドには少量の血液を認める。外陰部は対称性に軽度むくんでおり、圧痛はない。子宮底は臍下 2 横指の高さに硬く触れており、A さんは下腹部の痛みを訴えて苦しそうにしている。

A さんの症状について最も考えられるのはどれか。

1. 後陣痛
2. 膀胱炎
3. 頸管裂傷
4. 外陰部血腫
5. 子宮復古不全

次の文を読み 39～41 の問いに答えよ。

Aさん(25歳、初産婦)。既往歴に特記すべきことはない。妊娠経過は順調で、出産直後からの母児同室と母乳哺育とを希望していた。妊娠38週6日に陣痛発来で入院した。分娩第2期遷延のためオキシトシンを用いて陣痛を促進し、吸引分娩で娩出となった。児は、出生体重2,800gの男児でApgar〈アプガー〉スコアは1分後、5分後ともに9点であった。分娩所要時間22時間、分娩時出血量450mLで、会陰切開縫合術を受けた。分娩後2時間の母児の経過は良好であった。

39 分娩後3時間に訪室すると「傷がズキズキと痛みます」と訴えた。会陰部の観察をしたところ、創部に軽度の腫脹がみられたが離開や血腫はなかった。

このときの対応で最も適切なのはどれか。

1. 会陰部の冷罨法を行う。
2. 医師の診察を要請する。
3. 仰臥位を保つよう勧める。
4. 今は鎮痛薬を使えないと説明する。
5. 痛みが紛れるよう児を抱くことを勧める。

40 Aさんは、産褥1日目から母児同室を開始しており1時間半から2時間おきに授乳をしていた。産褥2日の夕方、Aさんは「こんなに授乳しているのに、赤ちゃんはすぐに泣きます。母乳だけでは足りないのでしょうか」と話し、疲れた様子であった。児の体重は2,590g。乳房は熱感を帯びて張っており、乳頭を圧迫するとタラタラと乳汁が流れ出てくる。児の吸啜状態は良好で、排尿は5回/日、排便は2回/日であった。

Aさんの気持ちを傾聴した後の対応で最も適切なのはどれか。

1. 人工乳を補足する。
2. 夜間は授乳を休む。
3. 時間を決めて授乳する。
4. これまでのペースで授乳を続ける。
5. 乳房緊満がなくなるまで搾乳する。

41 産褥5日、Aさんは児とともに退院した。産褥6日の夕方、産科病棟に電話がありAさんは「今トイレに行ったら、パッドに直径3cmほどの血の塊が出ていました。授乳後におなかが少し痛くなります。発熱はありません」と助産師に話した。

正常からの逸脱を判断するために確認する内容で優先度が高いのはどれか。

1. 「授乳は母乳のみですか」
2. 「陰部の傷は痛みますか」
3. 「動悸やめまいはありますか」
4. 「鮮やかな赤色の出血でしたか」
5. 「排尿のとき痛みはありますか」

次の文を読み 42～44 の問いに答えよ。

病院の助産師外来において、初回の妊婦健康診査時に、すべての妊婦を対象に自記式質問紙を用いてパートナーからのDV〈ドメスティック・バイオレンス〉のスクリーニングを導入することになった。

42 このときの対応で適切なのはどれか。

1. スクリーニング結果は診療録には残さない。
2. 自記式質問紙の記入は待合室で行うこととする。
3. カップルカウンセリングをするための部屋を用意する。
4. DV〈ドメスティック・バイオレンス〉に関する相談のためのホットラインの情報カードを女性用トイレに設置する。

43 Aさん(23歳、初産婦)。妊娠20週に初めて助産師外来を受診した。Aさんは、DV〈ドメスティック・バイオレンス〉のスクリーニングの結果が陽性であった。助産師が状況を聞くとAさんは「夫は仕事がうまくいかないと家で暴れる。先日、突き飛ばされて、肩をぶつけた。おなかを蹴られたこともある。これまで一人で悩んでいました。でも、誰にも言わないでください」と話した。Aさんの左肩にはあざがあった。

このときの助産師の対応で最も適切なのはどれか。

1. Aさんの両親に情報提供をする。
2. Aさんが帰った後、警察に通報する。
3. 分娩終了後にAさんへの対応を検討する。
4. Aさんに配偶者暴力相談支援センターの情報を提供する。

44 Aさんは弁護士に相談し、離婚を決意した。Aさんは正常分娩し、1か月健康診査で、新生児とともに来院した。「今は夫と別居しています。しかし、最近、夫から何度も電話があり、私と子どもに会いたいと言ってきている。もう夫に会うつもりはない。どうしたらよいのか」と話した。

助産師の対応として最も適切なのはどれか。

1. 家の外には出ないように勧める。
2. 児との面会について夫と直接話し合うよう勧める。
3. 保護命令のための申し立てができることを情報提供する。
4. Aさんの両親の立ち会いの下で、夫に子どもと面会させる。

次の文を読み 45～47 の問いに答えよ。

Aさん(34歳、初妊婦、専業主婦)。既往歴に特記すべきことはない。身長156 cm、非妊時体重52 kg。妊娠7週2日、経膈超音波検査で胎児の心拍動が確認できた。1週前から起床時の胃部不快感があり、食欲が減退している。嘔吐は1日1回程度。

45 Aさんへの食事指導で正しいのはどれか。

1. 「何回かに分けて少しずつ食べましょう」
2. 「水分を摂り過ぎると嘔吐を誘発します」
3. 「栄養バランスに留意して食材を選びましょう」
4. 「食事の代わりにサプリメントを摂りましょう」

46 2週後、夫から外来に電話があり「しばらく食事の工夫をして様子を見ていたがどんどん吐き気がひどくなり、現在、1日4、5回吐いている。食欲はほとんどなく、スポーツドリンクしかのどを通らないようだ。ずっとベッドに寝ている」と言う。妊娠9週3日、Aさんは夫に付き添われて受診した。下腹部痛や性器出血はない。顔色が悪くタオルを口元にあて、夫に支えられるようにして椅子に座っている。

入院の判断をするために重要な情報はどれか。

1. 内診所見
2. 吐物の内容
3. 尿ケトン体
4. 現在のBMI

47 入院後10日が経過し、安静および点滴治療によって症状は軽減してきた。訪室した助産師に対しAさんは「たくさん点滴しているので子どもに影響しないのか、とても心配です。インターネットで胎児の異常について検索してしまいます」とスマートフォンを持ちながら訴えた。

このときのAさんへの対応で最も適切なのはどれか。

1. 「今はあなたの治療が最優先ですよ」
2. 「両親学級を受講して正しい知識を得ましょう」
3. 「インターネットの情報に惑わされてはいけません」
4. 「入院中の出産経験者の方に相談されてはどうですか」
5. 「主治医から現在の状態について説明してもらいましょう」

次の文を読み 48～50 の問いに答えよ。

Aさん(36歳、初産婦)。2年前に人間ドックで高血圧を指摘されていたが、自覚症状はなく、特に医療機関には通院していなかった。妊娠7週0日の初診時、血圧150/90 mmHg、尿蛋白(-)であり、食事指導を受けた。その後、血圧は130/80 mmHg前後で推移した。妊娠35週3日の妊婦健康診査では、血圧164/100 mmHg、尿蛋白3+、尿糖(-)、下腿の浮腫2+であった。同日、血圧管理を目的に入院し、安静によって血圧は142/88 mmHgまで低下した。翌日、血圧140/82 mmHg、尿蛋白定量2.5 g/日であった。

48 Aさんのアセスメントで正しいのはどれか。

1. 妊娠高血圧
2. 妊娠高血圧腎症
3. 加重型妊娠高血圧腎症
4. HELLP 症候群
5. ネフローゼ症候群

49 その後も入院を継続し、血圧は安定していた。妊娠37週0日、Aさんは全身性のけいれん発作を起こし、血圧が190/122 mmHgまで上昇した。

最初に行われる処置はどれか。

1. 気道確保
2. 起座位への体位変換
3. 口腔内へのタオルの挿入
4. 膀胱留置カテーテルの挿入

50 3分程度でけいれん発作は消失した。Aさんの意識はもうろうとしており、呼びかけにはうなずくが返答がない。脈拍 80/分、血圧 145/88 mmHg、経皮的動脈血酸素飽和度(SpO<sub>2</sub>)96 %。NST を開始したところ胎児心拍数は正常であった。

このとき A さんに必要となる対応で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 血液検査
2. 輸血の準備
3. 頭部 CT の準備
4. 分娩誘発の準備
5. 気管内挿管の準備

次の文を読み 51、52 の問いに答えよ。

Aさん(25歳、女性)。B型肝炎ウイルスキャリアで内科に定期的に通院している。HBs抗原陽性、HBe抗原陰性であることが判明しており、肝機能に異常はない。半年前に結婚し、妊娠を考えているが、子どもがB型肝炎ウイルスに感染する危険性を心配して助産師に相談した。

51 Aさんへの説明として正しいのはどれか。

1. 「妊娠前にB型肝炎ワクチンの接種が必要です」
2. 「主に子宮内で赤ちゃんに感染します」
3. 「妊娠中にB型肝炎の治療を開始するのがよいです」
4. 「感染を防ぐ目的で帝王切開術を行う必要はありません」
5. 「出生直後に赤ちゃんに感染しているか確認します」

52 その後Aさんは妊娠し、妊娠経過は順調で2,850gの男児を病院で出産した。児は抗HBsヒト免疫グロブリンの投与とB型肝炎ワクチンの接種を受け、退院した。産後10日目に助産師が家庭訪問した。Aさんは「母乳がすごく出ています。感染しないためには母乳をやめたほうがいいですか」と言う。

助産師の対応として適切なのはどれか。

1. 「心配なら3か月の短期母乳栄養で人工乳に切り替えましょう」
2. 「母乳を一度冷凍してから与えるようにしましょう」
3. 「混合栄養に切り替えて母乳の量を減らしましょう」
4. 「母乳をやめる必要はありません」

次の文を読み 53～55 の問いに答えよ。

Aさん(35歳、初産婦)。妊娠39週4日。「赤ちゃんの動きがいつもに比べ少ないように思う」と電話連絡を助産師が受け、来院するように説明した。Aさんは夫に付き添われて来院した。来院時、体温36.5℃、脈拍91/分、血圧136/78 mmHg。分娩監視装置を装着したところ胎児心拍数は130～140 bpmであった。内診所見は、子宮口1 cm 開大、少量の出血がみられた。入院30分後に胎児心拍数が60～70 bpmに低下し、体位変換をしたが回復しないため、助産師は酸素投与を行った。5分後に胎児心拍数が120～130 bpmに回復したため、経過観察した。30分後に遅発性一過性徐脈が出現したため、初めて医師に連絡をした。

53 この経過において助産師の注意義務違反にあたる可能性のある行為はどれか。

1. 電話を受けたときに医師に連絡しなかった。
2. 来院時の状況を医師に連絡しなかった。
3. 入院30分後に胎児心拍数が低下したときに医師に連絡しなかった。
4. 医師に連絡せずに酸素投与を行った。

54 その後、緊急帝王切開術が行われ、Aさんは2,650 gの男児を出産した。Apgar〈アプガー〉スコアは1分後1点、5分後5点。夫は医師から「赤ちゃんが生まれる前に胎盤が先に剥がれ、赤ちゃんの具合が悪くなったので緊急手術をしました。赤ちゃんの回復のために集中治療室のある病院へ搬送します」と説明を受けた。搬送後に夫はうつむいて頭を抱え「何が悪かったのでしょうか。自分には何ができるのでしょうか」と言っている。

このときの夫への助産師の対応で最も適切なのはどれか。

1. 「まずはゆっくり休んでください」
2. 「今はAさんのそばについてあげましょう」
3. 「すぐに原因を調査する委員会が設置されます」
4. 「胎盤が先に剥がれた原因について考えましょう」

55 その後、児は重度脳性麻痺となる可能性が高いと指摘された。Aさんが助産師へ「産科医療補償制度が受けられると聞いたのですが、詳しく教えてください」と話した。

説明で正しいのはどれか。

1. 「原因分析の結果が家族に伝えられます」
2. 「18歳まで経済的支援が受けられます」
3. 「申請期限はありません」
4. 「申請先は市町村です」









